日本語における無生物主語構文と人称制限*

栗原　和生[1]

要　旨

日本語では無生物を主語に持つ他動詞文（無生物主語構文）は一般に許容されない。こうした特徴は、従来日本語の発想あるいは表現上の志向という観点から論じられてきた。この小論では、長谷川（2007）で論じられている主題の省略の観点から日本語の無生物主語構文について考察する。無生物主語構文に関する言語事実には、一見すると無生物主語構文の可否には無関係と思われる一人称・二人称の主題の省略が関与しているものがあることを示す。また、そのように考えることによって、無生物主語構文の可否およびそれに関連する言語事実を「一致（Agree）」に基づく統語的条件によって説明する可能性が開けることを論じる。

１．はじめに

日英語の相違点としてしばしば指摘される表現形式に無生物主語構文がある。日英語比較研究で「無生物主語構文」という場合、(1)と(2)に見られるような対比を指して用いられるのが一般的である。英語では(1)のように無生物を主語に持つ他動詞文はごく自然な表現として成り立つのに対して、(1)の主語と述語を保持した構造を用いて訳した日本語文はかなり不自然な表現となることが知られている[2]。

---

* 本稿を執筆するにあたり、長谷川信子氏との討議が大変有益であった。様々な観点から貴重なコメントを頂戴した。上田由紀子、大倉直子、小泉政利、外崎淑子、藤巻一真の各氏からも貴重なご意見やコメントを頂戴した。ここに記して感謝申し上げる。

[1] 神田外語大学外国語学部英米語学科教授。

[2] 無生物を主語に持つ文であっても、(i)の英文に対応する(ii)のような自動詞文であれば、日本語でも問題なく許容されることは言を俟たない。

(1) a. Robotic vacuum cleaners saved us time and energy.
b. Your story brings back memories of my high school days.
c. This medicine will relieve your pain.
d. This book gives you valuable information.

(2) a. ??ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
b. ??君の話が高校時代の記憶をよみがえらせる。
c. ??この薬が痛みを和らげるでしょう。
d. ??この本が貴重な情報を提供します。

(1)に対応する(2)の日本語文は、いずれも翻訳調でかなり不自然な文と判断されることから、多くの文法書では、(3)のように無生物主語を副詞節・句に格下げし、多くの場合自動詞文を用いて訳すよう指南している（江川(1991)）。

(3) a. ロボット掃除機のおかげで、時間とエネルギーが軽減された。
b. 君の話を聞くと、高校時代の記憶がよみがえってくる。
c. この薬で／この薬を飲めば、痛みが和らぐでしょう。
d. この本を読めば、貴重な情報が得られます。

(1)と(2)のような対比は、従来日英語の発想法あるは表現上の志向の相違として捉えられてきた（国広(1974), 池上(2006)）。出来事を描写する場合、英語では行為者が出来事を引き起こすという捉え方、つまり、SVO の文型を用いた「～する」という表現を志向する傾向がある。こうした言語では、本来人間に限られる行為の主体がモノや抽象概念にまで拡張され、それらがあたかも行為の主体となって出来事を引き起こすという(1)のような「無生物主語構文」がごく自然に

(i) The train arrived at the station.
(ii) 電車が駅に着いた。

成り立つ。他方、日本語のような「なる的」表現を志向する言語では、出来事から行為の主体を切り離し、なんらかの事態が生じたという(3)のような表現が好まれる傾向にあるとされる（池上(1981)）。

「なる的」表現を志向する日本語では、一般に(2)のような無生物主語構文は容認性の低い文になるのだが、無生物主語構文が常に許容されないわけではない。例えば、(4)のように自然な例も観察される[3]。

(4) a. その新薬が多くのがん患者の命を救った。
b. 台風が九州地方を襲った。
c. その参考書が初学者に有益な情報を提供するでしょう。

また、(3)は(5)のようにパラフレーズできることから、(3)には一人称・二人称の主題（topic）が省略されていることが分かる。そうだとすると同様に(2)でも(6)のように一人称・二人称の主題が省略されていると考えることができる。

(5) a. ロボット掃除機のおかげで、私たちは時間とエネルギーが軽減された。
b. 君の話を聞くと、僕は高校時代の記憶がよみがえってくる。
c. この薬で／この薬を飲めば、あなたは痛みが和らぐでしょう。
d. この本を読めば、あなたは／皆さんは貴重な情報が得られます。

(6) a. ??（私たちは）ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
b. ??（僕は）君の話が高校時代の記憶をよみがえらせる。
c. ??（あなたは）この薬が痛みを和らげるでしょう。
d. ??（あなたには／皆さんには）この本が貴重な情報を提供します。

[3] 角田（2009）は(4b)のような例をもとに、無生物主語が Silverstein（1976）の「名詞句の階層」において目的語よりも高い階層にある場合には、不自然さは生じないとしている。(4b)では主語、目的語はいずれも無生物であるが、「名詞句の階層」では「自然の力」＞「地名」となっており、(4b)はこれに従っている。「名詞句の階層」による説明については、稿を改めて検討したい。

この小論では、長谷川（2007）で論じられている主題の省略の観点から、(2)のような無生物主語構文について考察する。主題は旧情報を表すことから、しばしば省略されることがあるが、長谷川（2007）は、主題の省略には人称制限があることを論じている。以下では、日本語の無生物主語構文に関する言語事実には、一見すると無生物主語構文の可否には無関係と思われる一人称・二人称名詞句の主題の省略が関与しているものがあることを示す。また、そのように考えることによって、(2)〜(6)に代表される無生物主語構文の可否に関する言語事実を統語的条件によって統一的に説明する道が開けることを論じる。

第 2 節では長谷川（2007）で論じられている主題の省略現象とその統語的分析を概観する。第 3, 4 節では、無生物主語構文の可否に関するデータには、主題の省略現象に酷似したものがあることを示す。長谷川（2007）は、一人称の主題は特定の機能範疇との「一致（Agree）」を経て、その指定部へ移動し、省略されるとする分析を提案しているが、この仮説に基づく無生物主語構文の分析を提案する。第 5 節は以下で提案する無生物主語構文の分析の帰結について述べる。

２．主題の省略と人称制限

日本語では、かなり自由に主語や目的語などの項を省略することができる。(7), (8)が示すように、三人称の主題は主語・目的語の区別なく省略されうる。

(7) A: お母さんはどこに行ったの?
B: {お母さんは/ φ}デパートに行ったよ。

(8) （それぞれの話者が山田さんについて述べる状況で）
A: {山田さんは/ φ}後輩たちが頼りにしています。
B: {山田さんは/ φ}後輩に頼られています。

また、発話の状況から復元可能であっても、(9), (10)のように不定名詞句は省

略できないことから、日本語で項が頻繁に省略されるのは、主題が省略されうるからであると一般に考えられている（久野(1973, 1978)）。

(9) A: デパートに行ってきたよ。
B: {何か/*φ}買いましたか?

(10) （玄関のブザーが鳴るのを聞いて）
{誰か/人が/*φ}来たらしいね? （長谷川(1995: 28)）

このように日本語では主題であればかなり自由に省略できるのだが、長谷川（2007）は主題の省略には人称制限があることを観察している。(7), (8)で見たように、三人称名詞句の場合、主語・目的語の区別なしに、主題化および主題の省略が許容されるが、一人称名詞句の主題化については、「主語・目的語の非対称性」が見られる。

(11) （A が、教員室へ行く理由を問われて）
A: {私は/φ} 先生に呼ばれたんだ。

(12) ((11)と同じ状況で)
A: *{私は/φ}先生が呼んでいるの。 （長谷川(2007: 334)）

(11), (12)のφで示した省略された項は、話者を指している。(11), (12) の対比は、一人称名詞句が主語であれば主題化も主題の省略も許容されるが、一人称名詞句が目的語の場合は、主題化も主題の省略もできないことを示している。このようなデータを根拠に長谷川（2007）は、概略(13)の一般化が成り立つとしている。

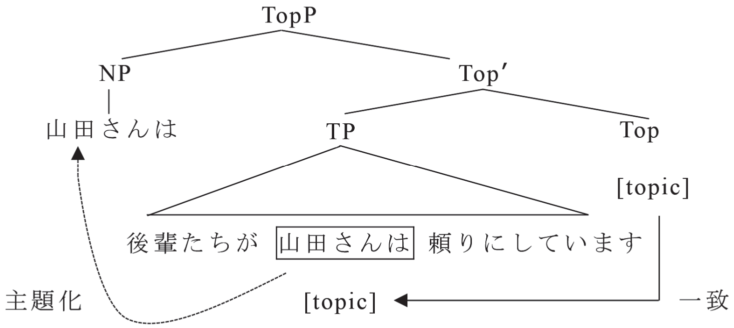
(13) a. 項は主題化によって移動し、移動先で省略されうる。
b. 主題化によって移動することのできない項は省略できない。

c. 目的語の一人称名詞句は主題化できない。

以下、(13)の一般化に基づく長谷川（2007）の分析を見ることにしょう。

長谷川（2007）はRizzi（1997）の精緻化されたCP構造を仮定し、三人称名詞句の主題化は、TopP（Topic Phrase）の主要部の持つ [topic] 素性との「一致（Agree）」を経て[4]、TopP 指定部へ移動すると分析する。これによれば、例えば、(8A)は次のように説明される。

(14)



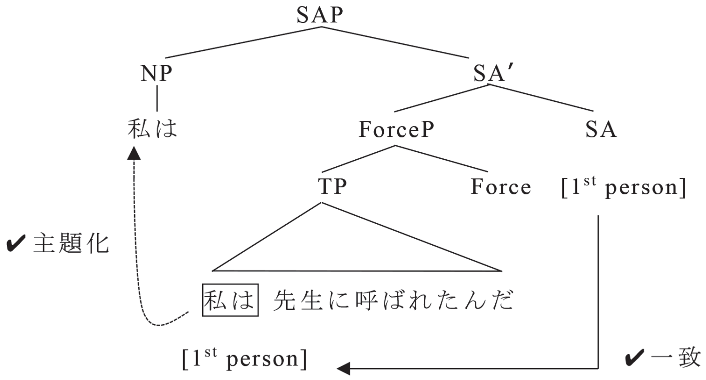
(14)の構造おいて Top と目的語名詞句「山田さんは」の間には、主語の「後輩たちが」が介在しているが、この主語名詞句は [topic] 素性を持たないので、目的語名詞句はTopの [topic] 素性と一致し、TopP指定部へ移動することができる。したがって、移動先で省略することもできる。

他方、長谷川（2007）は、一人称名詞句の主題化については、TopP とは異なる、機能範疇 SAP（Speech Act Phrase）の主要部の「人称素性」と一致し、その

4 「一致（Agree)」は次のように定義される。
(i) $\alpha > \beta$ (Agree), where α is a probe and β is a matching goal, '>' is a c-command relation and uninterpretable features of α and β are checked/deleted. (Chomsky 2000)

指定部へ移動すると仮定する[5]。この分析によれば、(11)と(12)の対比は次のように説明される。

(15)



(15)の構造において、SAP 主要部と主語名詞句の間には、人称素性を持つ別の名詞句は介在しないので、一人称主語は SA 主要部の持つ [1st person] 素性と一致し、主題化によって SAP 指定部へ移動することができる。したがって、移動先で省略することもできる。

他方、(12)では(16)に示したように、一人称の目的語名詞句と SAP 主要部の間に [3rd person] 素性を持つ主語名詞句が介在するので、SA と目的語名詞句との「一致」は「不活性要素介在条件（Defective Intervention Constraint, DIC）」によって阻止される[6]。そのため目的語の一人称名詞句を主題化によって SAP 指定部

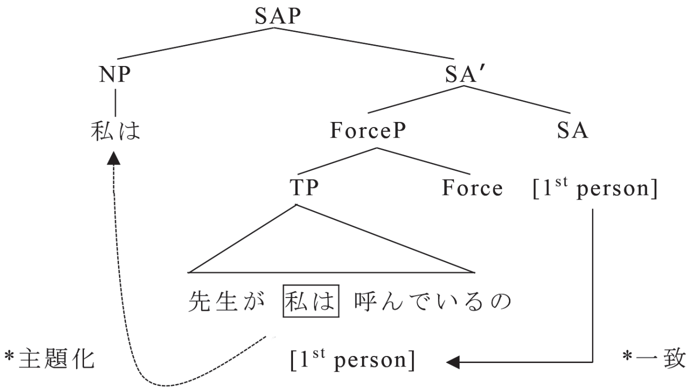
[5] 長谷川（2007）では、一人称名詞句の主題化は ModalP の主要部との一致を経て、ModalP 指定部へ移動すると仮定されている。他方、長谷川（2020）は Speas and Tenny（2003）を援用し、一人称の主題化には SAP が関与するとしている。ここでは後者の分析を採用する。

[6] DIC は次のように定義される。

(i) The Defective Intervention Constraint
In the situation $\alpha > \beta > \gamma$, where α is a probe and γ is a matching goal, α cannot Agree with γ if β is inactive due to a prior Agree with some other probe.（Chomsky（2000: 123））

へ移動することはできない。

(16)



３． 主題の省略と無生物主語構文

３．１． 一人称名詞句の主題省略

以下では、主題省略の観点から無生物主語構文について考察する。第 1 節で述べたように、一人称の目的語が隠れている無生物主語構文は許容されない。また、一人称名詞句の主題化も許容されない。

(17) a. ??{僕には/φ}その歌が子どもの頃を思い出させる。
　　b. ??{僕は/φ}大量の宿題が憂鬱にした。
　　c. ??{私たちには/φ}この本が貴重な情報を与えた。

(18)に示したように(17)の無生物主語を副詞節・句に格下げすることによって、主題が生起でき、またそれを省略することもできるようになる。このことから、(17)が許容されないのは、一人称の目的語を主題化できないことによると考えら

れる。

(18) a. {僕は/φ}その歌を聞くと子どもの頃を思い出す。

b. {僕は/φ}大量の宿題で憂鬱になった。

c. {私たちは/φ}この本を読んで貴重な情報を得た。

長谷川（2007）の分析では、例えば、(17a), (18a)の対比は次のように説明することができる。

(19) [SAP 僕には [ForceP [TP その歌が 僕には … 思い出させる]][SA 1^{st} person]]

*主題化 * 一致

(20) [SAP 僕は [ForceP [TP [その歌を聞くと][TP 僕は …思い出す]]][SA 1^{st}person]]

✔主題化 ✔一致

(19)の構造では、「僕には」と SA の間に [3^{rd} person] 素性を持つ主語名詞句（「その歌が」）が介在するため、DIC によって「僕には」と SA の [1^{st} person] 素性の一致は阻止され、SAP 指定部へ移動することはできない。そのため主題を省略することもできない。

他方、(18a)では無生物主語が副詞節に格下げされ、一人称名詞句は主語になっている。(20)の構造において、[3^{rd} person] 素性を持つ「その歌を」は副詞節内にあるため主語名詞句「僕は」をc-command しない。したがって、主語名詞句は SA の [1^{st} person] 素性と一致し、SAP 指定部へ主題化によって移動することができ、また、移動先で省略されうる。

このように(17)と(18)の対比を第 2 節で述べた一人称名詞句の主題化における

「主語・目的語の非対称性」として統一的に説明することができる[7]。

次に目的語内に一人称名詞句が隠れている例を検討することにしよう。(21)で省略されている一人称名詞句は、目的語の主名詞の所有者（i.e.,「私たちの時間とエネルギー」「僕の緊張」「僕の痛み」）である。(22)に示したように、所有者を目的語から分離して主題化することはできない。

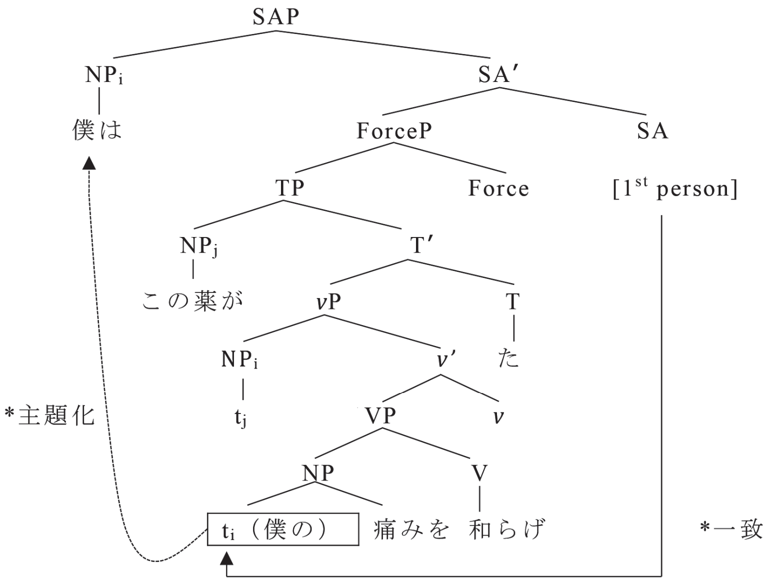
(21) a. ??ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
　　b. ??一杯のコーヒーが緊張をほぐした。
　　c. ??この薬が痛みを和らげた。
(22) a. ??私たちはロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
　　b. ??僕は一杯のコーヒーが緊張をほぐした。
　　c. ??僕はこの薬が痛みを和らげた。

上で述べた分析によれば、例えば(21c), (22c)は次のように説明される。

---

[7] 第 2 節で見た(12)の例は、(i)のように一人称の目的語が主題化されなければ許容される。一方、無生物主語構文は、(ii)のように一人称名詞句が主題化されない場合でも、(17a)との容認性に差は見られない。この点で一人称名詞句を含む無生物主語構文と第 2 節で見た一人称名詞句の主題化に関する事実が完全にパラレルというわけではない。但し、第 4 節で述べるように補助動詞「〜てくれる」を付加すれば(ii)は容認可能な文となる。
(i) （(11)と同じ状況で）
　　A: 先生が私を呼んでいるの。
(ii) ??その歌が僕に子どもの頃を思い出させる。
(iii) その歌が僕に子どもの頃を思い出させてくれる。
(i)と(ii)の違いについては、今後の課題としたい。
西村（1998: 196）にも、(iii)のように補助動詞「〜てくれる」を付加することによって、無生物主語構文の容認度が高くなるという指摘がある。斉藤（2003）は、この現象を久野（1978）の「視点の階層」の観点から論じている。

(23)



(23)に示したように、一人称名詞句は目的語の主要名詞から分離していると仮定する[8]。SA と所有者名詞句の間には、[3rd person] 素性を持つ主語名詞句が介在するので、「一致」は成立せず、(21c), (22c)のように所有者名詞句を主題化することも主題の省略も許容されない。

(21), (22)の例も無生物主語を副詞節・句に格下げすれば、一人称の所有者名詞句の主題化と主題の省略が許容されるようになる。

(24) a. {私たちは/φ}ロボット掃除機のおかげで時間とエネルギーが軽減された。

[8] 日本語では、様々な構文で名詞句内の所有者要素を主要名詞から分離させることが広く観察される。詳しくは、久野（1973), Kuroda（1986), 長谷川（2011）を参照されたい。

b. {僕は/φ}一杯のコーヒーで緊張がほぐれた。

c. {私は/φ}この薬で／この薬を飲んで痛みが和らいだ。

(24)が許容されるのは、一人称の所有者名詞を含む名詞句が主語になっているからである。例えば、(24c)では、[3rd person] 素性を持つ「この薬（を）」は、PP・副詞節内に位置するので、主語名詞句から分離した一人称名詞句（「私は」）は、SA の [1st person] 素性と一致し、主題化によって SAP 指定部に移動し、移動先で省略されうる。

(25) [$_{SAP}$ 私は [$_{ForceP}$ [$_{PP}$ この薬で][$_{TP}$ 私は $_i$ [$_{TP}$ [$_{NP}$ t_i 痛みが]…]]][$_{SA}$ 1st person]]

✔主題化　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　✔一致

この分析が正しいとすると、次の予測が成り立つ。

(26) a. 主語が有生名詞句の場合でも、目的語に含まれる一人称の所有者名詞句は主題化することも主題を省略することもできない。

b. 主語の所有者要素であれば一人称名詞句であっても、主題化し省略することができる。

次の例文は(26)の予測が正しいことを示している。(27B)の一人称の所有者名詞句は目的語内にあるので（「俺の鍵を」）、それを主題化することも、主題を省略することもできない。

(27)（外出しようとして自分の鍵がないことに気付いて）

A: どうしたの? 鍵がないの?

B: *{俺は/φ}お父さんが鍵を持って行ったのかもしれない。

他方、(28)では一人称の所有者名詞を含む名詞句（「俺の鍵が」）は主語になっている。一人称の名詞句は主語名詞句から分離しその外に位置すると考えられるので、SA の [1st person] 素性との一致を経て、主題化することができる。したがって、主題も省略されうる。

(28)（(27)と同じ状況で）

A: どうしたの? 鍵がないの?

B: {俺は/φ}鍵がなくなっちゃったみたいなんだ。

３．２．二人称名詞句の主題省略

以下では二人称の名詞句が省略されている無生物主語構文について検討する。

(29) a. ??この風景が子どもの頃を思い出させるでしょう。

b. ??この本が貴重な情報を提供するでしょう。

c. ??この薬が痛みを和らげるでしょう。

(29a), (29b)では、二人称名詞句の「あなたに」、「皆さんに」が、(29c)では目的語の主要名詞の所有者（「あなたの痛み」）が省略されている。一人称名詞句の場合と同様、二人称名詞句を主題化した文も容認されない。

(30) a. ??あなたにはこの風景が子どもの頃を思い出させるでしょう。

b. ??皆さんにはこの本が貴重な情報を提供するでしょう。

c. ??あなたはこの薬が痛みを和らげるでしょう。

(29), (30)の例文も無生物主語を副詞節・句に格下げすることによって、容認可能な文となる。

(31) a. この風景を見れば、子どもの頃を思い出すでしょう。
b. この本を読めば、貴重な情報が得られるでしょう。
c. この薬で／この薬を飲めば痛みが和らぐでしょう。

(32) a. この風景を見れば、あなたは子どもの頃を思い出すでしょう。
b. この本を読めば、皆さんは貴重な情報を得られるでしょう。
c. この薬で／この薬を飲めばあなたは痛みが和らぐでしょう。

長谷川（2007）では、二人称の主題の省略については論じられていないが、二人称名詞句の主題化についても、第2節で見た一人称名詞句と同じ「主語・目的語の非対称性」が観察される。

(33)（顔を腫らしている相手に対して）
{君は/あなたは/φ}誰かに殴られたんでしょ。

(34)（(33)と同じ状況で）
誰かが{君を/あなたを/*φ}殴ったんでしょ。

(35)（面接官が応募者について質問する状況で）
{あなたは/φ}大学在学中に二度も表彰されていますね。

(36)（(35)と同じ状況で）
在学中に大学が{あなたを/*φ}二度も表彰していますね。

(33)-(36)は主語の二人称名詞句は省略できるのに対して、目的語のそれは省略できないことを示している。さらに(37), (38)が示すように、目的語の二人称名詞句を主題化することもできない。

(37)（(33)と同じ状況で）
*{君は/あなたは}誰かが殴ったんでしょ。

(38)（(35)と同じ状況で）
*あなたは在学中に大学が二度も表彰していますね。

このように二人称名詞句の主題化も一人称名詞句のそれと同じ「主語・目的語の非対称性」を示すことから、二人称名詞句の主題化もSAP主要部の持つ人称素性との「一致」を経て[9]、SAP指定部へ移動し、その位置で省略されうると考えることができる。すなわち、(29), (30)と(31), (32)の対比は、第 3.1 節で述べた一人称名詞句の隠れた無生物主語構文と同様に説明することができる。

４．補助動詞「～てくれる」と人称制限

第 2 節で述べた長谷川（2007）の分析は、一人称名詞句の主題化が主語に限られるという一般化を捉えようとしたものであるが、この一般化には規則的な例外がある。「話者の共感」を表す述語（「～てくれる」）を用いると、一人称の目的語の主題化が許容されるようになる。

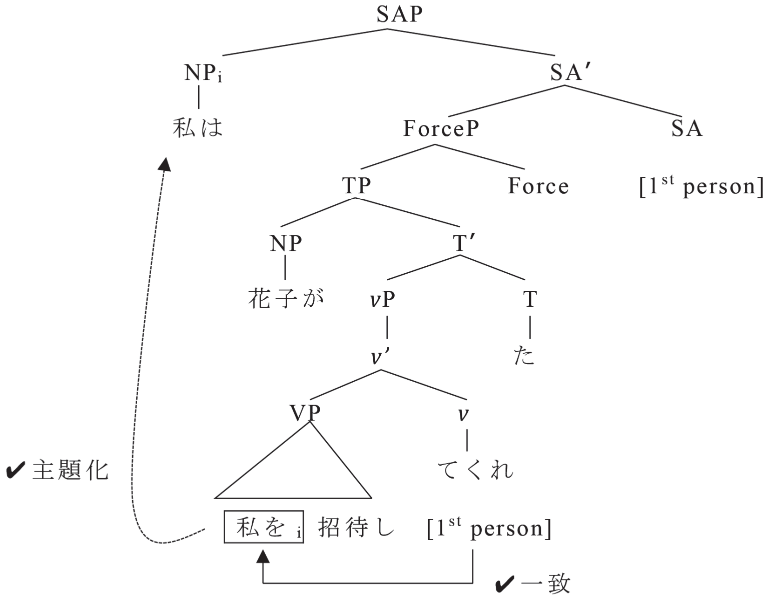
(39) A: あなたもこのパーティーに来てたのですね。
B1: *ええ、花子が{私を/φ}招待したんです。
B2: *ええ、私は花子が招待したんです。

(40) A1: あなたもこのパーティーに来てたのですね。
B1: ええ、花子が{私を/φ}招待してくれたんです。
B2: ええ、私は花子が招待してくれたんです。（長谷川(2007: 344-345)）

[9] 二人称名詞句の場合、SAP は [2^{nd} person] 素性を持つと仮定する。

(39)の「招待する」は、目的語が主語の行為の恩恵の受け手となることを表す述語であるが、目的語が一人称の場合、単独で用いることはできず、補助動詞の「〜てくれる」と共起しなければならない。興味深いことに、(40)のように話者の共感が目的語にあることを示す「〜てくれる」を付加することで、一人称の目的語の主題化および主題の省略が許容されるようになる。このような事実をもとに、長谷川（2007）は、[1st person] 素性を持つ「〜てくれる」が動詞句内に生起することによって、主語が介在することなく、一人称名詞句と *v* の「人称素性」の一致が成立し、目的語の主題化が可能になるという分析を提案している[10]。

(41)(=(40B1, B2))



10 長谷川（2007）は「〜てくれる」の付加された動詞は SA まで移動するとしている。

第 3 節で述べた無生物主語構文の分析が正しければ、一人称・二人称の目的語あるいは一人称・二人称の所有者を目的語に含む無生物主語構文でも、「〜てくれる」を付加することによって、容認可能な文となることが予測される。(42)(=(2))の例文はいずれも、補助動詞「〜てくれる」を付加することによって容認可能な文となる[11]。

(42) a. ??ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
　　b. ??君の話が高校時代の記憶をよみがえらせる。
　　c. ??この薬が痛みを和らげるでしょう。
　　d. ??この本が貴重な情報を提供します。
(43) a. ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減してくれた。
　　b. 君の話が高校時代の記憶をよみがえらせてくれる。
　　c. この薬が痛みを和らげてくれるでしょう。
　　d. この本が貴重な情報を提供してくれます。

「〜てくれる」を付加することによって、主題化も許容される。

(44) a. ??（私たちは）ロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減した。
　　b. ??（僕は）君の話が高校時代の記憶をよみがえらせる。
　　c. ??（あなたは）この薬が痛みを和らげるでしょう。
　　d. ??（あなたには／皆さんには）この本が貴重な情報を提供します。
(45) a. 私たちはロボット掃除機が時間とエネルギーを軽減してくれた。
　　b. 僕は君の話が高校時代の記憶をよみがえらせてくれる。
　　c. あなたはこの薬が痛みを和らげてくれるでしょう。

---

[11] 「〜てくれる」は、[1st person] 素性、[2nd person] 素性のいずれかを持つと仮定しておく。

d. あなたには／皆さんにはこの本が貴重な情報を提供してくれます。

(42)と(43), (44)と(45)の対比は、(39)と(40)の対比に酷似している。したがって、無生物主語構文でも「〜てくれる」を付加することによって、動詞句内で一人称・二人称名詞句が認可されるため、DIC に違反することなく主題化および主題の省略が可能になると考えられる。

５．分析の帰結

以上、無生物主語構文に関するデータには、一人称・二人称の主題の省略現象として分析できるものがあることを述べた。以下ではこの分析の帰結について考察する。

無生物主語を持つ他動詞文であっても、三人称の目的語あるいは三人称の所有者を持つ目的語であれば、容認可能な文となることが予測される。

(46) a. ??その参考書が{私たちに/φ}に有益な情報を提供するだろう。
b. その参考書は<u>初学者に</u>有益な情報を提供するだろう。
(47) a. ??この新薬が{私の/φ}命を救った。
b. この新薬が<u>多くの癌患者の</u>命を救った。
(48) a. ??落ち込んでいたとき、先生の言葉が{僕の/φ}胸を打った。
b. この小説の主人公の最後に言った言葉が<u>多くの読者の</u>胸を打った。

(46)-(48)の b 文は三人称の目的語あるいは三人称の所有者を含む目的語を持つ無生物主語構文であるが、容認可能な文である。また、b 文の三人称名詞句は、a 文の一人称名詞句とは対照的に主題化することができる[12]。

[12] (46)-(48)の a 文のφは文脈によっては三人称名詞句に解釈することもできる。φを含む a 文が完全に非文にならないのは、文法的に許容される三人称名詞句の解釈の可能性があることと関係しているのかもしれない。

(49) a. 初学者にはこの参考書が有益な情報を提供するだろう。
b. ?多くのがん患者はこの新薬が命を救った。
c. ?多くの読者はこの小説の主人公の最後に言った言葉が胸を打った。

(49b), (49c)は(49a)よりもやや容認性は落ちるものの、一人称・二人称名詞句の主題を持つ(50)とでは容認性に明確な差が認められる。

(50) a. ??私たちにはその参考書が有益な情報を提供するだろう。
b. ??私はこの新薬が命を救った。
c. ??僕は落ち込んでいたとき、先生の言葉が胸を打った。

第 3 節で示した分析によれば、(46)-(48)の b 文が容認されるのは、a 文とは異なり主題の省略が関与していないからである。また、(49)が容認されるのは、三人称名詞句の主題化には「主語・目的語の非対称性」がないからである。

次に補助動詞の「〜てくれる」の分析に関連する予測を見ることにしよう。「〜てくれる」のように、動詞句内に [1st person] 素性を認可する要素が生起すれば、一人称の目的語の省略が許容されることが予測される。補助動詞の「〜てくる」は話者寄りの視点を表すことから、[1st person] 素性を持つと考えられる。(51)-(53)の a 文では一人称の目的語が省略されているが、「〜てくる」を付加することによって、一人称の目的語の省略が許容されるようになる。これは b 文では、「〜てくる」が [1st person] 素性を持つので動詞句内で一人称の目的語との一致が成立し、目的語の主題化が可能になると考えられるからである。

(51) a. ??*{私は/ϕ}突然睡魔が襲った。
b. {私は/ϕ}突然睡魔が襲っ<u>てきた</u>。
(52) a. ??*{私たちは/ϕ}津波が襲った。

b. {?私たちは/φ}津波が襲ってきた。

(53) a. ??*{私たちは/φ}トラックが突っ込んだ。

b. {?私たちは/φ}トラックが突っ込んできた。

６. おわりに

以上、日本語の無生物主語構文に関す言語事実には、長谷川（2007）の論じる主題の省略が関与しているものがあることを論じた。とりわけ、一人称・二人称の名詞句が隠れている無生物主語構文を主題の省略として分析することによって、無生物主語構文とそれに関連する言語現象を「一致」に基づく統語的条件によって統一的に説明する可能性が開けることを論じた。

参照文献

Chomsky, Noam (2000) “Minimalist Inquires: The Framework,” *Step by Step: Essays on Minimalist Syntax in Honor of Howard Lasnik*, ed. by Roger Martin, David Machaels and Juan Uriagereka, 89-155, MIT Press, Cambridge, MA.

江川泰一郎（1991）『英文法解説（改訂三版）』金子書房，東京.

長谷川信子（1995）「省略された代名詞の解釈」『日本語学』14, 27-34.

長谷川信子（2007）「１人称の省略：モダリティとクレル」長谷川信子（編）『日本語の主文現象』331-369, ひつじ書房，東京.

長谷川信子（2011）「所有者分離」と文構造―「主題化」からの発展―」長谷川信子（編）『70 年代生成文法再認識―日本語研究の地平―』85-121, 開拓社，東京.

長谷川信子（2020）「従属節のタイプと「クレル」の解釈―補文のト節・コト節、付加詞節、関係節、裸ト節」『言語科学研究』神田外語大学大学院, 26, 13-24.

池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店，東京.

池上嘉彦（2006）『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』NHK 出版，東京.

国広哲弥（1974）「人間中心と状況中心―日英語表現構造の比較」『英語青年』119 (11), 48-50.

久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店，東京.

久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店，東京.

Kuroda, S.Y. (1986) “Movement of Noun Phrases in Japanese,” *Issues in Japanese Linguistics*, ed. by Takashi Imai and Mamoru Saito, 229-271, Foris, Dordrecht.

西村義樹（1998）「行為者と使役構文」中右実・西村義樹（編）『構文と事象構造』107-203，研究社，東京.

Rizzi, Luigi (1997) “The Fine Structure of the Left Periphery,” *Elements of Grammar: Handbook of Generative Syntax*, ed. by Liliane Haegeman, 281-331, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht.

斉藤伸治（2003）「視点と日本語の無生物主語」『アルテス リベラレス』（岩手大学人文社会科学部紀要）72, 43-54.

Silverstein, Michael (1976) “Hierarchy of Features and Ergativity,” *Grammatical Categories in Australian Languages*, ed. by Robert M. W. Dixon, 112-171, Australian Institute of Aboriginal Studies, Canberra.

Speas, Peggy and Carol Tenny (2003) “Configurational Properties of Point of View Roles,” *Asymmetry in Grammar*, ed. by Anna Maria Di Sciullo, 315-344, John Benjamins, Amsterdam.

角田太作（2009）『世界の言語と日本語 改訂版―言語類型論から見た日本語』くろしお出版，東京.